

1 中期的な学校運営の目標・方針

- 1 「指導の重点」「夢ある教育」の推進と、建学の精神を実践する。 ・自分をつくる ・ふる里をつくる ・明日をつくる
- 2 「求める学校像・生徒像」を具現化する。 ・自立 ・創造 ・共生
- 3 「学校づくり」を重点化し推進する。  
 ・地域に根差した教育を推進し、地域に開かれた魅力ある学校 ・ふる里を愛する心を育て、明日の佐用を担う生徒の育つ学校  
 ・一人一人の生徒を理解し、望ましい人間関係を築いていく学校 ・教職員が指導力を発揮し、実践力を相互に高め、磨き合う学校  
 ・危機管理を徹底し、安全・安心のある学校

2 年度の重点目標

- (1) 自立して未来に挑戦する態度の育成  
 ・社会的自立に向けたキャリア形成の支援  
 ・進路指導の充実  
 ・小中連携教育の充実
- (2) 「生きる力」を育む教育の推進  
 ・確かな学力の育成
- (3) 子どもたちの学びを支える仕組みの確立  
 ・安全・安心な生活・学習環境を整備  
 ・生徒指導の充実 ・教職員の資質能力の向上  
 ・情報の発信と保護者、小学校、地域との連携

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

学校評価の実施方法  
 ○アンケート(生徒、保護者、職員)各学期及び行事ごとの職員の反省をもとに、職員会議で報告し、達成状況、改善の方策を検討し、学校関係者評価委員会で説明し助言を得て次年度に活かしている。  
 → このサイクルを次年度へ引き継ぎ、少しずつでも前進させていく。

5 総合的な学校関係者評価

○生徒が落ち着いた学校生活を送れているのは、教職員の日頃の取組の成果であるが、教職員の健康管理には細心の注意が必要である。  
 ○SNSを利用したいじめなどの問題が社会問題となっている。発見しにくい問題だけに、生徒の動向に注視して欲しい。  
 ○研修会などあらゆる機会を捉えて人材育成に努めて欲しい。

3 学校自己評価(A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

分野	評価項目・取り組み内容	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策	6 評価項目ごとの学校関係者評価 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 集団生活を営む上での規範意識のさらなる高揚、定着を目指す。                      ・ 規律正しい登下校を目指す。(ヘルメット、タスキ、時間厳守)</li> <li>・ いじめの未然防止、早期発見、早期対応</li> <li>○ 教職員の資質向上を目指す。                      ・ 授業力の向上を目指し、相互授業参観を行う。</li> <li>・ 研修講座等へ積極的に参加する。</li> <li>○ 学習(教育)環境を整備する。                      ・ 施設・設備の点検、補修を行う。</li> <li>・ 学校、学級掲示の充実させる。</li> <li>○ 学校業務の改善を行う。                      ・ 会議の効率化、定時退勤日・ノ一部活デーの実施</li> </ul>	A	生活指導委員会を中心に、全職員で生活全般にわたる指導の共通理解を図っている。 → 登下校の様子は良くなった。自転車の並進がなくなり、ヘルメット、タスキの着用率が良くなった。 → 全職員で分担し、下校時は部室前、自転車置き場、校門、旧給食センター、下校路の車による巡回指導等を行い指導を継続した。また、登校時は、危険箇所にて挨拶運動をかねて、毎日教職員が立ち遅刻もなくなった。 ◎いじめアンケートの実施による現状把握、面談、個人指導、全体指導、家庭との連携、経過観察 → アンケートや保護者、生徒からの訴えにより、数件のいじめを把握した。状況確認の後指導を行うとともに、家庭連絡などの対応を行った。いじめは解決しているが、慎重な経過観察に努めている。 ◎教職員の協働体制を構築し、若手教職員の教師力の育成を図る。 → 授業を公開し、教職員全体の力量を高める。積極的に研修会へ参加することで授業力の向上を目指す。 ◎ 廊下や教室の掲示板を活用し、話題や注意事項など情報提供を行った。HPもほぼ毎月更新し、行事予定を知らせた。また、二階渡り廊下にブックステーションを新設し、読書の環境の充実を図った。 → 生徒の関心も高く、来年度も継続していく。 ◎ 会議は1時間30分以内に終える。定時退勤日、平日ノ一部活デーの実施を図る。 → 会議時間は短縮でき、平日ノ一部活デーは概ね達成できている。部活動終了後の仕事量の軽減を図りたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域では仲良く登下校しており、挨拶もしっかりできており心配な様子はない。しかし、問題の潜在化に留意し、深刻化する前の未然防止に努めることが肝要である。</li> <li>・欠席傾向にある生徒の状況が心配されたが、友人関係が良好で2学期以降登校状況がよく安心した。家庭の状況に注視して欲しい。</li> <li>・教職員の勤務時間が問題になっている。先生方の健康管理に心掛けてもらいたい。</li> </ul>
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習習慣の定着を図る。                      ・ 高校進学に向けた確かな学力を育む。</li> <li>・ わかる授業の展開、自主的・主体的な学びの促進</li> <li>・ 家庭学習の重要性を指導し、日々の家庭学習の充実を目指す。</li> <li>・ 特別支援委員会を学期2回開催し、指導事項の点検や実態把握に努める。</li> <li>・ 学習指導委員会を定期開催し、生徒の支援体制を構築する。</li> <li>○ 校内研修として道徳の授業・カウンセリングマインド研修を進める。                      ・ 講師を招き道徳の授業研究を行う。</li> <li>・ カウンセリングマインド研修を進める。</li> <li>○ 活力ある生徒を育成する。                      ・ 大きな声で挨拶をする。大きな声で返事をする。大きな声で校歌を歌う。心をこめて掃除をする。目標を持ち努力する。</li> </ul>	B	学習指導委員会を定期開催(各学期に2回)し、学習習慣の定着を目指している。 ◎ 家庭学習の時間の充実を図り今年度も自主学習ノートの取り組みを継続して行い、軌道に乗ってきた。支援を要する生徒に対しては個別に記録ファイルを作成して、授業ごとの状況を把握し情報交換を行って支援の方向性を共有した。週末及び定期テスト後には課題の提出状況を把握し指導を行った。授業ではチャイム着席(チャイムのなり始め)の点検を行うことで、時間を守る意識が向上している。→ 来年度も継続する。 ◎ 指導方法の工夫改善、ICT機器の活用、自主的・主体的な学びを推進し学習意欲を高める。 → ICT機器の利用による授業を積極的に推進できている。機器の工夫を含め、分ける授業を意識している。学力テストの結果等を教職員が共有し、今後の指導に生かし、学力の向上を図りたい。 ◎ 特別支援委員会を学期に2回開催し、生徒支援の共通理解を図ることができた。 → 来年度も継続する。 ◎ 道徳教育の実践力向上を目指し、研究を深めてきた。今年度は大阪府和泉市立郷荘中学校、松原弘教諭を2回招聘し研修会を実施した。 → より実践的な研修に切り替え、道徳の教科化へ教育力量の向上を図った。 → 担任以外の道徳研究授業を計画し、若い教職員の授業力向上を図った。 ◎ 8・11月にはスクールカウンセラーの濱野先生によるカウンセリングマインド研修講座を実施した。 → 来年度も継続する。 ◎ 「自分をつくる」5つの取組の継続 → 「創自」とともに、「自分をつくる」をキーワードとして学校運営ができていく。更なる創意工夫を重ねたい。 ◎ 保護者、生徒へ生徒総会や参観日、地区別懇談会等の機会をとらえ、携帯電話、スマートフォンの使用についての注意喚起を行った。 → 情報機器を使用しているの犯罪が増加しており、来年度も継続していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンスクールは、よい雰囲気での生徒の活動が見られた。展示物も良好であった。</li> <li>・生徒アンケートから学習面で不安が感じられたが、落ち着きのある態度を継続させ、学力向上を目指して欲しい。</li> <li>・ICT機器の充実はずばらしい、十分な活用を期待する。</li> <li>・佐用町を担う人材を育成するため、教職員の資質向上に努めて欲しい。</li> <li>・携帯電話等の使用に係るトラブルについては、生徒だけでなく保護者も気をつけることが多い。継続して取り組んで欲しい。</li> </ul>
課題教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福祉の心を育て、体験活動等を通して実践的意欲や態度を育成する。                      ・ 朝陽ヶ丘荘、朝霧園での奉仕活動を行う。</li> <li>○ 小中の連携を密にする。                      ・ 清掃活動を通して小学校と連携し、清掃活動を校区に広める。</li> <li>・ 小学校の研究会にできるだけ参加する。また中学校の研究会への参加を小学校へも呼びかける。</li> <li>・ 小学校6年生の実態把握に努める。</li> <li>・ 小学校6年生に中学校の紹介をできるだけわかりやすく行う。</li> </ul>	A	◎ 生徒会主催の奉仕活動に76名の生徒が参加した。感染症予防のため屋外掃除に取り組んだ。日頃の清掃活動の充実により、手際よく清掃を行っていた。 → 来年度も継続していく。 ◎ オープンスクール期間を利用し、2学期にほぼ全員の職員が交代で小学校訪問を行い、児童の実態把握に努めるなど小中連携を図った。 → 来年度さらに交流できるようにしたい。 ◎ 1学期には小学生を招いての公開清掃や、2学期には小学校を訪れて掃除レクチャーを行った。 → 生徒の自己有用感や達成感が育まれており、来年度も継続していく。 ◎ 昨年に引き続き、佐用地域管理職連絡会を2回開催し、行事等の調整や児童生徒の指導の状況について話し合った。 → 来年度も継続していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐用中の特色として清掃活動が定着していることは、大変よいことである。清掃活動を契機として、小中学校の連携を推進して欲しい。</li> <li>・小中連携を密に、問題行動の未然防止や学力向上に向けて指導の継続性を維持して欲しい。</li> </ul>